

田舎の家で 最期まで暮らすために

平成24年1月29日 東三河北部医療圏協議会
第1回 健康・医療に関する活動発表会

設楽町つぐ診療所長 高木健太郎
支える医療研究所愛知支部

診療所の紹介

- 人口1400人。高齢化率45%。
- 近隣病院まで40分～1時間。
- H17年9月開設、20年4月常勤化。
- 医師1名、事務2名
看護師 常勤1名&パート1名。

はじめのころ

- 施設外泊中に体調を崩し、在宅看取りとなったケース。
- 最期は家族や地域の人に囲まれ、周りを曾孫が走り回っていた。

この国の現状

- 自宅・老健・老人ホームなど合わせた在宅等死亡率は15%。
- だからこそ住み慣れた家・地域で最期を迎えられるのは貴重なこと。

ここで暮らしたいをかたちに

- 最期まで暮らしたければ
暮らせばいい。それを支える。
- 田舎で暮らせ死ぬることは
地域に力があることの証明となる。

地域の医療介護資源

- 地区内に入院入所設備なし。
- 社協：ケアマネ・ヘルパー
- 偕楽園：デイサービス・
自立型生活支援ハウス
- 訪問看護・訪問入浴
- 後方病院。

支えあえる連携

- 社会資源の乏しいへき地では従来の役割のみでは回らない。
- お互いの役割を尊重し支え合い、在宅看取りが形になってきた。

今までの成果

- 20人以上の看取りをかたちに。顔が見える連携に支えられた。
- 多職種が関わる事で在宅医療・介護への地域の理解が進んだ。

示せた可能性

- へき地でも在宅看取りは可能。
- まだ地域には力が残っている。
他の地域でも活かせる？

可能性を形へ

- 医師が変われば成り立たなくなる医療など安心でもなんでもない。
- 継続した安心を求めるならば、それを作るのは住民や行政の仕事。

まとめ

- 多職種多施設が顔の見える連携を行い、役割を尊重し支えあった。
- この地域の田舎でも家で最期まで暮らせる可能性を示した。
- 今後この可能性を形にしていくのは、地域の皆さんの仕事。

診療所看護師大募集！

- 常勤嘱託（4月から勤務）。
詳細は設楽町HPをご覧ください。
募集締切 2月3日。
- パート（今すぐにもお願いいたします）。
詳しくは診療所まで！

● 日々の活動は診療所ブログもご覧ください。